**2016.8.25**

【笹岡委員】　　数字を出していただいてありがとうございました。前回、数字の根拠等を要望させていただいた際に、私としては他自治体の例も参考にしていただきたいと一言申し伝えたはずですけれども、そのときの御答弁も可能だったらやりますみたいなお答えだったと思っております。

　いただいた資料ですけれども、財政予測における投資的経費の内訳及び試算に使用した根拠等についての紙で、数点お伺いしたいと思います。

　１番の投資的経費の内訳（総事業費）ですけれども、こちらはどこの部分の内訳なのか。といいますのも、何年分なのかとか、どこの時点の投資的経費を出していらっしゃるのかがよくわからないので、そこをお願いしたいと思います。

　また、２番の（１）、先ほど他の委員からも御指摘がありましたように、これまでの武蔵野市の整備水準等を踏まえて総務省計算単価よりも高いということですけれども、グレードとおっしゃいましたが、もともとどのようなグレードを言っていらっしゃるのか説明をいただきたいと思います。

　次の裏のページの（２）都市基盤施設の試算根拠ですけれども、公園と道路のところをごらんいただきたいと思います。新規の公園で302億円、道路の新規で499億円、約500億円ですね。こちらは一体どこのことなのかというのを伺いたいと思います。数字としては、かなり大きなものを加算していらっしゃるなと思っております。特に道路ですね。500億円を新規として試算根拠にしていらっしゃる。でしたら、これはどこの道路まで含まれて500というのを出していらっしゃるのか伺いたいと思います。まず、そちらでお願いします。

【堀内総合政策部参事】　　１つ目の御質問でございますが、投資的経費はいつの時点のものかということでございます。これは平成28年度から57年度までの30年間に必要な投資的経費ということでございます。

　２つ目の公共施設のグレードというお話でございますけれども、先ほどもちょっと申し上げましたように、例えば千川小学校であれば、あのままの水準で建てかえる。ただ、物価が違いますので、それは今に当てはめてということでございます。

【福田まちづくり推進課長】　　都市基盤のほうでございます。公園、道路の部分でございますけれども、まず公園につきましては、法定、条例等で１人５平米当たりというふうに決められているところの向こう30年間を積算したもので、300億円の内訳とすると、工事費と用地費、補償費もわずかに入るという形を積算したものになっております。

　道路につきましても、○印の下にポッチで書いてありますとおり、新規で都市計画道路、区画道路を整備した場合という形で、都市計画道路につきましては市内でまだ未整備な部分の市施行となるだろう都市計画道路、４路線ぐらいあるのですけれども、その部分を30年の間に実施した場合の積算、また区画道路につきましてはマックスの値を出すという考えのもとに、構想路線も含めまして、数値的には下に書いてあるとおり約5,000メートルとあるのですけれども、その部分を用地費、工事費、補償費を含めて積算したという内訳になってございます。

【笹岡委員】　　ありがとうございます。投資的経費は平成28年度から57年度のものでしたら、そのように書いていただきたいと思います。どこの時点のものなのかというのがわからなかったので、ちょっと動揺しました。

　整備水準等の話はわかりました。

　まず、投資的経費のことについて要望なのですが、他自治体のものを参考にしていただきたいと申しましたのは、ここに東久留米と立川のものを持っております。立川市公共施設あり方方針ですとか、東久留米市公共施設のあり方に関する基本方針、将来を見据えた公共施設整備の方向性といったものですけれども、投資的経費１つだけをとったとしても、武蔵野市のようなこういった書かれ方をしていません。

どのような書かれ方をしているかというと、今までの直近の何年かの投資的経費を全てグラフにして、毎年幾らかかっている、またそれを１人当たりにすると幾らになるというものですとか、今後かかってくる毎年毎年の投資的経費の計算、また投資的経費をどこまでやるのか、大規模修繕でとどめるのか、保全にしておくのか、そういったことまで細かく計算されております。武蔵野市のこの計算根拠となるものとか、出していただいた数字を見てみると、そういったところまで言及されておりませんよね。

　例えば投資的経費等の将来更新費用とすると、他自治体ですと大規模改修分で何億とか、大規模改修分の実施が既に経過している建築物に係る改修分は何億とか、建てかえ分は何億、それで総合で何億、それを１年当たり単純計算、平均すると何億、それを直近の投資的経費年平均にすると、何年後は何倍になってしまう。そういった計算をされているのです。

　武蔵野でいただいたものはグラフの数字が打ってありませんし、今回いただいたものも28年度から57年度まで全て足してあります。そういったことよりも他自治体で出しておりますもののように、投資的経費の平均額の今後何年後までの試算ですとか、そういったものをもう少し丁寧に、年平均にするとか、今後予測の比較等は何％高くなってしまうのではないかとか、どの規模でやるかとか、そういったことまで細かいものを出していただければ、28年度から57年度まで約30年間を全て施設ごとにプラスした金額よりははるかにわかりやすいものを他自治体は出してきておりますので、そこまでやっていただきたかったなと思っております。

　先ほどほかの委員からも縮減ありきで計算がされているのではないかというお話がありましたが、１つ足りないなと思ったのが、ほかの自治体のものばかり比較してあれですけれども、読んでみますと、全て縮減ありきではなく、少しだけ武蔵野にも書いてありましたが、施設運営費の削減として維持管理をどうするかとか、運営方法をどうするか、指定管理にするとどうするか、包括的外部委託にするとどうなるのか、ＮＰＯ管理はどこができるか、広域連携はできるか、また公共施設を資源とした収入確保はどのくらい考えられるのか、ＰＦＩ、民間のノウハウ及び資金の活用はどのくらいできるのか、そういったことまで、縮減をする前にできることは全てやるのだというものが姿勢として明らかにされております。

　しかしながら、武蔵野市の公共施設等総合管理計画を読みますと、縮減目標がぱーんと出ていて、とにかく建物、箱物を減らすのだというものになってきているように感じます。それをやる前に無駄を省けるところがもっとあるのではないかと思ってしまうのですけれども、そこの見解を伺いたいと思います。投資的経費の件についてもお願いいたします。

【堀内総合政策部参事】　　まず最初の御質問の立川とか東久留米、その辺の他自治体のことでございますけれども、私どもは平成23年９月に公共施設白書というものを出しております。今、多くの自治体では、御紹介いただいたように、投資的経費だけの比較というのですか、例えば過去５年、10年で幾らかけてきた、これからの予測だと年平均で幾らかかるから何万円足りないという出し方をしている自治体が多いわけです。私どもも平成23年９月に出した公共施設白書のときには、そのような表現をさせていただいたところでございます。

　ただ、そのときに議会のほうからも御意見をいただいたと記憶しておりますが、投資的経費だけの比較でいいのかと。例えば社会保障費だってこれからふえていくでしょう、基金はどうなのですか、税財源はどうなのかとか、そういった財政全体のことを考える必要があるだろうという御意見をいただいたこともございまして、今般示したような財政予測をしたということでございます。

　例示でございますけれども、指定管理者制度とか広域連携、公民連携等々のこと、これは私どもも当然考えておりまして、基本方針にもそのようにお示しをしてございますし、類型の中にも物によってはこういうことも検討しようということでお示しをしております。ただ、具体的に何をどうやっていくのか、今の公民連携、広域連携とか、それをどう使っていくか、どうやっていくかというのはこれからの市民議論になると思いますので、現時点で私どもとしてはこういうことも検討するべきだということでお示しをしたものでございます。

【笹岡委員】　　わかりました。公共施設白書では投資的経費についてそのようにやったけれども、社会保障費とか補償費といったことを考えて、今回こういったものにしたというお話だったかと思いますが、私はそういうふうにして今回こういった試算、議会でも話題になりましたが、これの根拠は一体何なのだというふうになったというのは、総合的な視点も必要だと思いますけれども、総合的視点を勘案してこういったものを出したというので、そうかというふうにはならずに、前進したというよりはとても計算がわからなくなったし、公共施設の床面積を縮減する根拠が逆に薄くなってしまっているのではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

　先ほどの道路の件について伺いたいと思います。まず公園ですけれども、公園の新規が302億円に対して、１人当たり5.0平方メートルというのが決まっているということをおっしゃっていましたが、平成22年で4.5平米ではなかったですか。計画では20年後に５を目指すというものだったと思うのですけれども、いかがでしょうか。公園302億円、そういった１人当たりの計算にするとそうなるのかもしれませんけれども、５を目指して300というふうにしているとおっしゃっていましたが、これでそうなのだと納得されるような方はいらっしゃるのかどうかというところは大いに疑問であります。

　道路に関してですが、都市計画マスタープラン2011においては、区画道路について、現行の計画については地域の現状を総合的に考慮し、再検討いたしますと書いてありますが、全ての区画道路を計算にのせてくるのはいかがなものか。最終的に金額が500億円にもなっているということについて、このマスタープランとの整合性について伺いたいと思います。

　また、都市計画道路の施工率は平成22年57.6％（市施行分70.2％）と私の調べではなっていたのですけれども、それは合っているのかどうか。これは施工率を100％として計算して500億円になったのかどうかというところも確認させていただきたいと思います。まず、そこでお願いします。

【福田まちづくり推進課長】　　まず、公園のほうでございます。公園で１人当たり５平米という形が法律、また武蔵野市の条例でも定めておりますので、それが新規整備の一つの目標という形になっておりまして、済みません、先ほど委員がおっしゃられた20年後に目指すという話ですけれども、そこの部分についてはそこが最終目標ですので、今後30年間の投資的経費の新規整備という考え方の中では、そこの部分を一応新規に目指していくという形のとりあえず試算をするための最大値、このぐらいの投資的経費が公園ではかかるという形で算出をしている形になってございます。

　次に道路のほうで、今回示しております類型別方針の中でも区画道路については、構想路線は廃止も視野に入れてという記述をしておりますけれども、先ほどの公園と一緒で、今回、構想路線も含めて投資的経費を算出するに当たって、最大値で幾らかかるのだろう、そこのベースを押さえないとできないという中で、同じような考え方で投資的経費の中に算入してございます。

　また、都市計画道路の整備率は、最新のもので市施行の部分としては78.4％という形になってございます。都市計画道路は幅員、現道の関係を含めて都施行、市施行に分かれますので、先ほど申しましたとおり、市施行として整備になるだろうと思われる未整備路線４路線を算出したという形になってございます。

【堀内総合政策部参事】　　根拠が薄くなったのではないかという御意見をいただきましたが、まずこれはあくまでシミュレーションであるということが前提にございますけれども、総務省の単価をもとにいたしまして、先ほど御説明したように、武蔵野市なりの水準を反映したものにしております。もしかすると、立川市さんとかで出している投資的経費だけの見せ方のほうがクリアで、わかりやすいのかもしれませんけれども、私は本来的には財政が全体的に見えるようなもののほうが本来の姿ではないかと思っております。

【福田まちづくり推進課長】　　申しわけございません。答弁を訂正させていただきます。私は残り４路線と言っていたのですけれども、５路線という形でお願いしたいと思います。

【笹岡委員】　　どちらがわかりやすいかということに関しては、私が公共施設等総合管理計画を考えるに当たり、他自治体ものを読んだ限りでは、市民の方の公共施設の床面積削減により、市民サービスが減ると感じる方もいらっしゃると思います。

使っていたところが使えなくなったとか、狭くなってしまったとか、あとはコミュニティの再編などもかかわってくるような大きな話だと思いますが、そういったことを考えていただくに当たっては、これでパブリックコメントをとるのは、中に指摘がありましたとおり、この計算根拠は何なのですかと。財源不足に対して、このお金はどのように捻出するシミュレーションがあるのですかとか、これはもっともだと思うのです。

　なので、こちらの細かい数字が出ていて、これだけ足りないといったことがわかる。特に武蔵野は財源が豊かだと思っている中で、これを読まれた方とこっちを読まれた方、どちらが納得されるのかなと思いますので、ぜひ決めつけずに読んでいただきたいと思っております。

　道路の500億円、５路線というお話をいただきました。都市計画道路は今、平成27年度で61.4％というお話をいただきましたが、これを100として計算しているのかというところの答弁をいただいてないのでお願いいたします。

　あと、地域を考慮して再検討というのもミニマムではなく、マックスの数値を出しているだけだとおっしゃいましたが、マックス、マックス、マックスを足していって、これだけ縮減しなければならないという目標数値が出ている中、それはいかがなのかなと思っています。適正なもの、一言ここに「今後の事業進捗により事業費が大幅に異なる場合がある」と書いてありますが、これを読んで500億円新規の道路をどこにやるのだというふうに普通の方は思うのではないでしょうか。

　また、東久留米の計画においては、インフラ事業のこと、インフラの種類が道路、橋梁、下水、公園、将来更新費用、東久留米においては30年で345.7億円と書いてありました。それで、武蔵野は公園と道路の更新・改修を足してみますと、285億円ほどになるわけであります。そこに本市は新規道路の500億円も足してきている。さすがにそれはいかがなものかなと思いますが、見解があればお願いいたします。

　また、公共施設等総合管理計画案を今考えているに当たって、先日、公の施設のモニタリング評価が出ておりましたが、こちらとの関連性というのはいかがになっているのでしょうか。それもお願いいたします。

【福田まちづくり推進課長】　　まず最初、都市計画道路の進捗率ですけれども、笹岡委員が言われた市施行路線を100％とした数字を使っている、そこを100とした数字という形になってございます。

　それと、都市基盤において、公園とか道路で計画されているものの最大値を足し算しているという形でございますけれども、現時点で、例えば都市計画道路で計画決定しているものにおいて、今の時点でここの部分を廃止するですとか、やりませんというものは今のところ何一つ出ておりませんので、計画されているものについては、都市計画法上でいきますと、とりあえずやるという前提になっておりますので、その部分は試算としては足しているという形になってございます。

【与座委員長】　　笹岡委員、もう１回285億円のところを質問してもらえますか。

【笹岡委員】　　285億円というのは、他自治体がインフラとして道路、橋梁、下水、公園の更新費用を計算しております、わかりやすく。それで、例えば東久留米ですと、30年で、その更新費用はインフラ部門においては345.7億円と出ておりました。これは武蔵野は公園と道路だけの更新だけを足して285億円となっておりますが、私が申し上げたかったのは、そういった計算にやるかやらないかわからない道路の500億円等を足してきている、ほかの自治体はないのではないでしょうかということです。

【福田まちづくり推進課長】　　申しわけございませんでした。投資的経費の考え方の中で、こちらの今回お示ししています表の更新・改修という部分につきましては、既存にあるものを一定の年限が来たときに新たに更新する費用においては、笹岡委員が言ったとおり、足して285億円という話。そこにやるかやらないかわからないというあれでしたけれども、区画道路の問題は、その辺の構想路線については法的な根拠は今のところないのですけれども、先ほど来御説明しているとおり、最大値を投資的経費として出すという考え方の中で、投資的経費の中に当然この部分が含まれてきますので、市としては試算するに当たっては、この部分も足し込んだという形にしてございます。

【笹岡委員】　　おっしゃることもわかっておりますが、公共施設等総合管理計画の特別委員会ができる発端となった、学校施設が最初に統合・複合化等に向けて走り出すという、もとの、もとの、もとのところの計算の根拠になっているからこそ、マックス、マックスでやっていって、これだけどうにかしなければならない。

　それで、まず最初に学校が走り出したというところにおいて、もう少し計算の根拠を示してくれというお話になったと思いますので、投資的経費の考え方等は理解するところではありますが、結局この計画の出口というか、かすっているところに学校施設の統廃合が入ってきている記述が27ページにあったという、床面積縮減のみで達成する場合は16％減らさなければいけない。そこに学校が入っていて、最初の計画ですと、学校が最初に検討、実施になっていたこと、そこが大きくかかわっていることをお考えいただきたいと思っております。

　公の施設のモニタリング評価との関連性については。

【名古屋総合政策部長】　　公の施設のモニタリング調査の評価の結果については、市が指定管理を委託している先の評価でございまして、公共施設等総合管理計画案とは直接的には関係はございません。

【堀内総合政策部参事】　　学校の複合化ないしは小中一貫等のことがございましたが、これは市民意見交換会でも何度も御説明申し上げているところですが、もちろんソフトを検討した上で、ハードということにつながりがないとは申し上げませんけれども、今、教育委員会でやっている小中一貫等々の検討というのはまさにソフトの検討ですので、そういう意味では総合管理計画の面積が縮減するから検討しているということでは決してございません。ということが１点でございます。

　先ほどの説明の中で申し上げましたけれども、４月５日の全協でお出しした資料を皆さんお持ちですよね。それから、市民意見交換会でも同じ資料で今のところは出しているわけですが、この間、さまざまな御意見をいただいておりますので、先ほど御説明しましたように、今、再修正の検討をしております。パブコメに出しますのはそれから出しますので、この形で出すということではございません。笹岡委員の御意向が全て反映されるかどうかは別にいたしまして、これからそういう修正をかけた上で、また市民の御意見をいただくということでございます。

【笹岡委員】　　ちょうどもう１個、次の質問をしようとしていたところだったので。いただきました資料の別紙の市民の意見と市の考え方の取り扱いというのは、どういったものなのでしょうか。読んだ限りでは、これはまとめるのに非常に大変だっただろうなと思いながら読みました。ありがとうございます。しかしながら、市側の考え方が正直といいますか、市民の方からの意見に対するお答えとしては、結構きついなと思いました。こちらの取り扱いを公にされるのかどうか。先ほどこの形では出さないとおっしゃったのは何の話でしょう。どういう取り扱いをするのかどうか伺いたいと思います。

【堀内総合政策部参事】　　これにつきましてはせっかくいただいた貴重な意見でございますので、先ほど申し上げましたように、最後にまとめるときにものせますし、また公表という形をとってまいるということでございます。

【笹岡委員】　　では、確認しますが、この市の考え方の論述の言い回しといいますか、踏み込みかげんといいますか、そういったこともこのまま出すという理解でよろしいのかどうか伺いたいと思います。

　また、17ページをごらんいただきたいのですが、「将来の投資的経費のピークの一つが庁舎の建て替えである。これをどう進めていく考えか」というのが114番にあります。それのお答えが、「市役所の位置、アクセス性なども含め、今後の類型別施設整備計画を検討する中で議論していく」とありますが、こういったこと一つとってみても、市役所の庁舎の建てかえというのは相当大きなことだと思います。しかもアクセス性なども含め、位置も含めと書いてあります。

位置をかえるのかなと思ったのですけれども、そういったこんな大きな問題をまたこういった類型別でやっていくということなのかどうか確認をしたいと思います。

　加えて19ページ、129番です。「平成29年度に学校施設整備基本計画を策定するとなると時間がないのではないか」という意見に全く答えていらっしゃらないのですけれども、これに対しては何か書かれないのですかということを伺いたいと思います。

【堀内総合政策部参事】　　公表するときにこのままなのかということですが、基本的には市民の方ともフラットな議論をしていきたいと思っていますので、その一つ一つはこのままかどうかは別にいたしまして、そういう形でこれからもやっていきたいと思っています。

　114番の具体的な庁舎の話ですけれども、一般論としては当然こういうことなのではないかと思います。それをこれからどうしていくのかというのが、まさに市民の皆様と議論していくことだと思います。

　129番の学校施設整備計画はちょっと時間がないのではないですかという御意見をいただいたことへの回答ですけれども、同じような御質問があって、学校のことは子どもの教育のことですし、当然コミュニティとも絡んでまいりますので、非常に重い課題であることは認識しております。しかし、改築が近くなっていることも含めまして、私どもとしては努力目標としてこの目標で進めてまいりたいということでございます。

【笹岡委員】　　一般論でこのように進めていくという114番、庁舎の建てかえについてありましたが、では、これが案がとれ、類型別施設整備計画おのおのが検討されていくところでは、だれがどのように決めていく予定なのか、議会との関係性も含め伺いたいと思います。

【五十嵐副市長】　　ただいまの114番、庁舎の建てかえについてでございますけれども、これは今、委員御指摘のように非常に大きなテーマで、それこそこの庁舎をつくるときに市民ホールという形でどうしていくのだとか、いろいろな御議論があったわけで、当然これをまたつくりかえるとなれば、同じように大きな議論が必要だと思っております。

　それを前提としながら、ここの書き方では、庁舎というのを類型別で行政施設の中に組み込んでおりますので、いずれそういう課題が出てくるから、その計画をつくっていく中で議論すべきものだと。そのようにあっさり事務的に書いてあるわけで、類型別の計画というのは、例えば職員だけでばばばっと全部つくるとか、そういうことではありませんし、一般論としては広く市民の意見を聞きながら類型別の計画もつくっていくという、まずそういう大前提がありますので、その中で、特に庁舎については類型別といっても影響が大きい施設だと思っておりますから、そこは簡単に計画がつくられるようなものではないと考えております。

【笹岡委員】　　では、長期計画がまず一番最初にあって、調整計画があって、公共施設等総合管理計画案がとれた状態であって、類型別というものではないと私は思っていたので、学校施設の話とかコミュニティの再編が絡んでいく中で、類型別の話というのは限りなく長計マターですとか、人々の生活にかかわってくる話ではないのですかと前回申し上げました。そうしますと、類型別の立ち位置がいまいちわからなくなってくるので、もう少し説明をいただけたらなと思います。庁舎に限らず、学校施設も文化施設も同じぐらい大きな問題になってくるのではないか。コミセンの話においても、消防団の話においてもというふうに思いますが、類型別の立ち位置はどのようになっているのか、もう一度確認させていただければと思います。

【堀内総合政策部参事】　　今、皆様のお手元にある修正版では、今、御意見がありましたように、長期計画が一番上にあって、総合管理計画があって、類型別の計画があるということで前回お示しをしているところでございますが、これにつきましてもいろいろ御意見をいただいておりまして、もう少しわかりやすい内容に修正する予定でおります。内容というか、総合管理計画そのもののそれぞれの個別計画との関係なども含めまして、今お示ししている縦の関係の中にはソフトとの関係は出てないわけです。

　ですので、そうではなくて、当然ソフトがあってハードだということと、ただ、一方で、施設整備については総合管理計画の人口なり財政なり、今抱えているさまざまな課題なりを共有しましょう、横串を刺しましょうという意味で一定の方向性、それぞれが個別に何々の計画、何々の計画をつくるということではなくて、その中で共通の部分、横串を刺す部分をこの総合管理計画で方向性なり一定の枠組みを示して、その中で全体で整合性のとれた、横串を刺した施設整備に関する計画をつくっていきましょうということでございます。ですから、それは当然、裏にはソフトのことがあってということでございます。

【笹岡委員】　　結局、立ち位置がどのあたりになるのか。一番最初にいただいた総合管理計画の下の類型別が変わってくるのかというのがちょっとわからなかったのですけれども、私はマネジメントの必要性自体は本当によくわかっております。でも、マネジメントを説明するに当たって、計算の根拠ですとか、信頼性といいますか、投資的経費が細かくないとか、最初に出てきた16％の根拠とか、そういったことはもっともっとできたのではないか。言って出てきたときも、私の希望するようなものではなかったと思っているのです。

なので、ますます類型別の重みというか、重要性が、類型別というのはもう１個下の段階みたいに書いてありましたが、それでおさまってくる話ではないのではないかと思っております。

　マネジメントをするに当たって指標と言いましたっけ、つまりは道しるべみたいなものが、方向性が必要だというのはよくわかりますけれども、方向性を出すに当たっての計算の根拠が乏しかったのではないかということと、その方向性が大変細かく出ている、類型別に。そういったことはいかがかなと思いますけれども、今後この類型別施設整備方針について変更があるのかどうか伺いたいと思います。

【堀内総合政策部参事】　　１つ、類型別方針をここでお示ししましたのは、御説明でもいたしておりますが、あくまで現時点でこれから類型別の検討をしていく際に、こういうことを検討しなければいけないよねと。結果がどうなるかは別ですよ。ですけど、こういうことも検討しましょうということでお示しをしたということで、今、修正をかけるものにはその辺の文言にもう少し補足の説明の説明を入れたいと思っています。

　変更があるのかということですが、当然、議会も含めまして、市民意見も含めまして今御意見をいただいているところでありますので、修正が必要だと判断すれば、それは修正をかけていくということでございます。

【笹岡委員】　　わかりました。私はこの類型別の例えば消防団のところですとか、消防団詰所においては、学校やコミセンの敷地内への移転の可能性も検討する。こういったような踏み込み方というのは、全体の道しるべ、方向性としては行き過ぎているのではないかと思っておりますので、ぜひ類型別そもそもの立ち位置の、またそれでよいのかどうかということも含め、この総合管理計画案がとれた時点でこの類型別の案がとれてしまいますので、そういったことに対しても非常に疑問というか、ふさわしいのかどうかというのは大変疑問が残ります。

　そして、これが案がとれたときに、現時点でここまで細かく書かれていて、これを読んだ方は学校やコミセンに消防団の詰所が入ってくるのではないかとすぐに思われますよね。そういったことはこの方向性をあらわす計画案に必要なのかどうかというのは、もう一度検討すべきことではないかと思います。

　以上、意見です。